

生田地区副所長

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学情報科学センター 公開日: 2012-06-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鎌田, 弘之 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/13021

〔副所長所見・生田地区〕

生田地区副所長・鎌田 弘之

2005年度は、年度初め早々生田システム課課長に中田義三氏が就任されました。後に、中田課長は変革を指揮する管理者としては最適な方であるということを伺いましたが、それからの1年間を通じて、その手腕の高さを実感させられ、たいへん勉強になった思いがしました。

2005年度に生田キャンパスにおきた主な変化を挙げるれば、以下のとおりになります。課長の強力な牽引力のおかげをもって、これらの項目は全て2006年度には実現する運びとなっています。

1. 懸案事項であったA棟システムのサポート体制の改善

年度初めに稼働を始めたA棟のPCシステムは、中央校舎内のPCの台数を上回る350台が5部屋に分けられて用意されているにもかかわらず、授業時間以外は部屋が施錠され、高価な設備が有効利用されていない状態でした。過去の経緯を考えれば難しい問題です。そこでセンターTAの授業時間中のサポートを暫定的に停止して、教室の空き時間に対する自習対応としてTAの方々に対応してもらうよう変更してもらいました。急な時間配置変更に応じてくれたTA諸氏はもとより、煩雑な作業を粛々と実行してくれた生田システム課スタッフに、ただただ感謝する次第です。

2. オープンPCの設置と71号棟設備の中央校舎への移転

71号棟のPC教室は、授業には欠かせないものである一方、近隣のグラウンドから入る砂埃やサポート体制のとりにくさから、生田キャンパスでは長年の懸案事項になっていました。

一方、中央校舎内のWeb自習室は、約50台の立ち席利用によるPC設備であり、2005年度から他教室と同様のソフトウェアをインストールしているにもかかわらず、利用状況が芳しくありませんでした。

そこで学習院大学におけるオープンスペースに設置したPC設備について調査がなされました。このプランは2006年度には早速実行され、Web自習室内のPCを生田キャンパス各所にオープンPCとして分散配置しました。そして中央校舎内に発生した空き教室に71号棟設備を移転するというプランが出されました。この発想は、長年生田に住んでいた小生には到底思いつくものではありませんでした。課長の柔軟な発想には驚いた次第です。

3. 生田キャンパスにおけるIT・AVの統合とワンストップサービスの実現へ

和泉校舎ではすでに実現されているIT・AVの統合案が出され、生田キャンパスでも実現する方向で検討されました。前年度まで和泉校舎にて活動されていた課長は、すでに良い事例を目の当たりにされてきているだけに、生田キャンパスにとっても有効なプランであることは疑いようもありません。

4. 中央校舎内一般教室に対するモバイルコンセントの設置

生田キャンパスには従来55口しか存在しなかったモバイルコンセントを、中央校舎内の一般教室に設置する方向で検討され、実現する運びとなりました。長期的な視点で考えれば、据え置き型PCをなくすことは不可能であるものの、現在の台数を維持管理することには、いずれ限界が来るものと思われます。その一方、駿河台キャンパス、和泉キャンパスではすでに導入されているモバイルコンセントではありますが、その有効活用法については模索の途上にあると思われます。理系学部を2つ抱える生田キャンパスから、その有効活用モデルを発信できるよう、今後も検討を進めて生きたいと考えます。